

平成 26 年 3 月 15 日

北関東フォーラム

於：シムックス

中斎塾 北関東フォーラム

平成 26 年度第 2 回

君 君たり、臣 臣たり

今日の素読は非常によろございました。何度も申し上げていますが、素読は情景が浮かんでくるように読み込んでいくのが良いと思っています。その為には何度も何度も読み直しをすることですが、読み直しをしていると自然と、この字は何だろうと疑問に思い、それを調べたくなる。調べなさいと言われて調べるのと、自発的に調べるのとは全く違います。また、情景がありありと目の前に浮かんでくるようになると、その人の気持ちになる事が出来る。その人の気持ちで素読が出来るようになると、論語が自由自在に自分のものになってきます。

素読をされた嶋田さんは、この中で良いなと思った台詞はありましたか？

(嶋田会員)「君 君たり、臣 臣たり。父 父たり、子 子たり」の部分が良いと思いました。

今朝の上毛新聞に、4 歳の女の子にアイロンを当ててやけどをさせた母親が逮捕されたという記事がありました。4 歳の子が泣きわめいて言うことを聞かないからといって、こういうことは如何なものかと誰もが思うことですが、こういう事件は多いですね。親が子供を殺したり虐待したり、子が親を殺したり・・・何ということかと思いますが、これは世界全体の動き、日本全体の動き、各地域の中での動きといった大きな流れの中で起きていることです。「父 父たり、子 子たり」・・・そうでない現実が頭の中にあるから、嶋田さんは良い台詞だなと思われたのでしょう。

皆さんも論語の台詞の中で良いなと思う台詞があったら、暗記をされるとよろしいでしょう。覚え込むことです。

先日、前橋で開かれている岡田さんという方の書道展に行って参りました。煥乎堂の元常務で、定年退職後は群馬県立図書館の館長や土屋文明記念館の館長をされた方です。赤城に持っておられるアトリエの前の道に模造紙をつないで 60 メートルにして書いた書が展

示されていました。書道展は前半と後半に別れていて、先週見に行った時は60メートルの書は飾ってありませんでしたが、たくさんの書が会場いっぱいに埋め尽くされていて、入った瞬間に<死者の群れ>というイメージを感じました。もの凄い迫力でした。宮澤賢治の「雨ニモマケズ」や、頼山陽の「天草洋に泊す」という漢詩の一篇がありましたし、吉村昭さんの文庫本『関東大震災』のページを切り取って貼りあわせ、そこに文字を書いたものもありました。色々な書がありましたが、共通のテーマは「死」でした。

岡田さん曰く、今の書道界は閉塞している。目の前の小さなもので凝り固まっているから、もっと大きな眼を開いて世の中を見よう！ と書で警鐘を鳴らしている、ということでした。3.11の後、岡田さんは現地に行って遺体があちらこちらに散乱している状況の中を歩いたら、どうしても書が書きたくなかったそうです。3年必死に書いて、やっと書けたので展示をしたとおっしゃっていました。<死者の群れ・死者の叫び>という印象でしたが、同時に、書という芸術を通じて世の中に警鐘を鳴らしたいという迫力がありました。

岡田さんとのご縁は、私が煥乎堂書店の「煥乎」という文字は論語からとったのか確認したくて煥乎堂に出かけて行って、説明の出来る人ということで当時常務だった岡田さんにお会いしました。そして「煥乎」という文字は論語からとったという確信を得たので、話をさせて戴いていますし、本にも書かせて戴きました。

このように論語という書物は日本の国の中で色々な所に広がっていますから、自分自身で納得のいくところまで調べ尽くす、研究し尽くすのが良いと思っています。私は石川梅次郎先生から、「論語を勉強して学者になるのだったら、とりあえず論語を全部暗記しなさい」と言われました。明治・大正の頃は、論語を最初から最後まで暗唱してから一日が始まるという人も多かったようです。今の時代、そんなに簡単に全部暗記などできません。ですから自分の気に入った文章を一つでも暗記して戴くとよろしいでしょう。

ちなみに、嶋田さんが気に入った「君 君たり、臣 臣たり・・・」という部分は、徳川家康も同じでした。徳川幕府はここに惚れ込んで、徳川幕府の学問の基本を論語（朱子学）に置くと決めました。徳川幕府の根幹の考え方はここにあるといっても過言ではありません。つまり、親がバカでも子供は孝行しなさい、将軍がバカでも大名・家来は徳川幕府に忠誠を誓いなさい、というふうに徳川家康は読み込んで政策をとったわけです。

もう一つ、お話しします。群馬県には上毛かるたという非常によいものがあります。上毛かるたが何故出来たか、作られた動機はご存知ですか。上毛かるたの生みの親、浦野匡彦先生は戦時中、警察官僚として満州に行っておられた。日本に帰って来ると、子供たちは墨塗りの教科書を使われていた。終戦当時GHQの指令で、日本の偉人や日本の歴史、

日本人のプライドを持つような記述には全て墨を塗らされました。浦野先生はなんとか群馬県の子供達に郷土の偉人や歴史・文化を伝えたいと思い、GHQに認めてもらえるような教科書らしくない教科書を作りたいと考えた。そして県民からアイデアを募って上毛かるたを生み出したわけです。群馬県の子供たちに正しい愛国心と群馬県民としてのプライドを持って貰うために、子供たちが胸を張って読める教科書を作りたいという想いで作られたのが上毛かるたです。この話は、ご本人から伺いました。上毛かるたは今、遺族の方が県に贈呈しました。ですから納まるべき所に納まっています。

今の時代、正しい歴史認識・正しい本質・正しい大局が求められていると思います。岡本代表幹事の挨拶で、「国家に騙されないように」という台詞が印象に残りました。今、国家は国民を騙しています。騙し続けています。

代表幹事は「オリンピックが何事もなく終わった」とも言っておられましたが、日本にとっては何事もなく終わった。しかし、開会式で五輪の輪が一つ欠けていたのは皆さんもご覧になったと思います。ロシアの広報官は、誰にも迷惑をかけていませんから欠けても問題ないでしょうというような発表をしていましたが、裏側では、五輪のマークを出す担当の人間が殺されていたそうです。マスコミは何故そういう事実を流さないのかと思います。確かに何事もなく終わったことは良かったと思いますが、背景にはやはり様々な犠牲があると感じます。隠された部分がかかなりあると感じています。

「オリンピックが終わった後に、悲惨な結果が広がっている」というのも、岡本さんの言われる通りだと思います。来たる東京オリンピックをどのようにもっていくか、その後どのようにするか、我々も正しい考え方をもち正しい行動をする必要があるであろうと思います。

将（おく）らず 迎えず 応じて蔵せず

では、基本哲学「知足」からお話します。足るを知るとは、淡々と現状あるがままを受け入れることだと今回つくづく思いました。現状あるがままを受け入れるところから、知足という心は生まれてくる。これは、なかなか難しいことです。

例えば、先月の北関東フォーラムは記録的な大雪でした。岡本代表幹事が中止を決定しグループウェアで連絡してくださいました。的確な判断だったと思います。しかしグループウェアをご覧にならない方や電話連絡ができなかった方もいるので、来られる方がいる限りは、お迎えしなければいけません。私は大雪という現状認識をし、必ず行くと決めたから、必死に雪かきをしてシムックスに行きました。現状認識の結果、行動した。

それから娘が亡くなった時です。現実を受け入れる事が出来なくて、相当抵抗しました。結果、それなりに気持ちも静まってきましたが、やはり辛いですね。悲しいし切ないし、地団駄を踏む感じです。でも、とにかく現状を淡々と受け入れようと思って必死になって受け入れました。足るを知るとは現在あるがままに感謝する、と言っていますが、その時は少しも感謝できませんでした。今も、そうです。喜ぶものを見つけなさい、と自分でも言っていますが、少しも喜べない。ただ出来たことは、あるがままを淡々と受け入れようと思いました。淡々と受け入れるところから、足るを知るという言葉がしっかり浮かんで来ました。

ですから足るを知るとは、すべてが喜ぶ話だけではありません。悲しみもあり、苦しみもあるし、悶える事もある。全部呑み込んで自分と一体化させていく。それが足るを知るという気持ちの出発点であろうと感じています。そこから先でなければ、なかなか喜びや感謝も出てこない気がします。繰り返しますが、知足とは現状あるがままを淡々と受け入れることです。その受け入れる時の言葉として浮かんだのは、「将(おく)らず 迎えず 応じて蔵せず」という荘子の中にある言葉です。将らず・・・起きてしまったことは、くよくよ振り返らない。迎えず・・・これから起きるであろうことは、取り越し苦労しない。応じて蔵せず・・・現状あるがままを淡々と受け入れて、為すべきことを精一杯努力すれば良い。自分自身が満足できることを精一杯やれば、腹に一物も残さ過ぎてゆける。そういう気持ちで進んでゆければ、基本哲学が見えてくると思っています。

人間は思った通りの人生が送れる

本日の紹介書籍は『盛大な人生』(中村天風述)と宇野千代さんの書かれた『天風先生座談』です。人間は何ごとも自分の考えた通りになる。考えた通りの人生が送れる・・・天風先生の唯識学です。

唯識学という学問を今年は新規講座で取り上げようと思っています。木内信胤先生、中村天風先生、松下幸之助、河井継之助、洪澤栄一といった方々の事例を引き合いに出しながら掘り下げていきたい。これには2, 3年はかかると思っています。合格と認めた方は中斎塾フォーラムを代表して外部へ講演に行つて戴く。昨年は比田井副理事長がモンゴルに論語を教えに行きました。そういう方に資格を差し上げたいと思っています。

もう一冊ご紹介します。先ほど群馬県の素晴らしい教科書として上毛かるたの話を致しましたが、それ以前に『修身節約』という明治時代の全国の教科書の元になったものが群馬県で生まれていました。群馬県の初代県令となった楫取素彦という人が、教科書を作つて群馬県民に配った。それを明治政府が認めて、全国の教科書の手本にするよう指示しま

した。ですから群馬県は非常に教育に熱心であった、そういう歴史があったのだと知りました。

「嘘をつかない」から広げて考えよう！

では、恒例の質問を致します。いつもと少し形を変えてお話します。

○ 昨日一日、嘘をつかなかった方

皆さん手が挙がりました。嘘をつかない人生は、ようございます。

素読をして戴いた中で、「片言以て獄を折むべき者は、其れ由なるかと。子路 諾を宿むること無し」とあります。孔子が言うには、一方の言葉を聞いて訴訟事件を裁断する。それで誰も不服を言わない。それだけ信頼の厚い人物は、子路しかいないかね・・・という意味です。子路は正しい判断をし即座に実行するということですが、その背景にあるものは、子路は<約束を守る・嘘をつかない>を地でいったような人間だ、と周りから信頼を得ていたからです。

ちなみに子路は戦死したあと、肉を切り刻まれて醢（ししびしお・塩辛）にされてしまいました。それを聞いた孔子は、家にあった塩辛の甕を叩き割って嘆いたと言われています。当時の中国では、勇者の肉を食べれば同じ力が宿ると考えられていました。ここから見えるものは、2500年以前の中国では人肉食が社会常識で通用していたという事です。歴史学者はそう見て取りますが、普通、論語の解説をする時にはそれは言いません。

人肉食というキーワードで見ると、例えばこういう事例を考えてみます。飛行機が落ちて誰も助けが来ない。生き残った乗客は食べ物がなく、どんどん死んでいく。そういう状況になった時、日本人はどうするか？ 外国人はどうするか？ そうすると、農耕民族と狩猟民族の違いが出ると思います。狩猟民族は死んだ人の肉を食べて生き残る。その後、神の名において有罪か無罪か社会が糾弾するでしょう。日本人の場合、戦争は別として、おそらく人肉を食べないと思います。一緒に死んでいこうという諦観が生まれる。無常観や悟りと言ってもよいでしょう。日本人の本質的なものの考え方と、アメリカやヨーロッパの人たちの考え方には根本的に食い違うところがある、という事が見えてきます。

更に、子路は<嘘をつかない・約束を守る>を地でいく人物であったという所から広げて、現代に置き換えると、「侵略」というキーワードが見えてきます。

今、ロシアと中国が極端に突出しています。ロシアと中国が絡まり合っている。その元凶はアメリカです。アメリカの国力が弱くなったので、中国は自分の周りの領土を侵略し

始めています。カンボジアやベトナムに行って感じたことですが、それらの国では一般の国民までが、中国が我々を侵略しつつあるという恐怖感を強烈に持っています。中国はいくら悪さをしてもアメリカは手を出さないと見くびって、フィリピン・ベトナム・カンボジア・タイ・日本・・・へ網を広げ、色々な形で侵略戦争を仕掛けています。

ロシアはそれを煽って、アメリカの出方を見ていたのでしょう。世界的に見るとロシアとアメリカはあちらこちらで代理戦争をしていますから、中国が領空にまで手を出してもアメリカが動かないのを見て、ウクライナへ侵略の手を伸ばし始めました。ウクライナのクリミア地方は親ロシアだから、国民投票をさせてロシアに編入したいと言わせれば大義名分がつくような仕組みを作ったわけです。今、ウクライナとロシアで綱引きをしている状況です。ウクライナの背後に控えているアメリカは老衰で力がなくなっている。一方のロシアは、ソ連が老衰でへたばってしまった後に新たな力を得て復活したのがロシアですから、エネルギー戦略でヨーロッパを睨んでいます。ロシアも新たな領土侵略戦争を始めたと感じます。

日本はどうでしょうか。ロシアに色目を使われて、自分もロシアと仲良くしておけば韓国・北朝鮮・中国と対抗できるのではないかと考えているから強いことは言えない。日本に強く出られないようにロシアは手を打っている。アメリカに対しても手を打っている。そういう図式が見えてきます。

以上、嘘から広がりました。単純に<嘘をついたか・つかないか>ということだけで考えないで、嘘からずっと広げて見る。そういうものの考え方をお持ちになるとよろしいでしょう。

では、次の質問です。

○ 昨日、良い日だった・満足して眠れたという方

夜寝る時に、本当に良かったなと思うと熟睡できます。不満や不安があると眠れません。無理やり良いことを見つけて、良いと思うものに考えを集中して眠ることです。

○ 昨日一日、有難うと言ひ・有難うと言われた方

心から有難うと言って戴くと、それが心に入って栄養になります。私は最近、手帳に有難うと言ってくれた人の名前を書くようにしています。

○ 昨日一日、健康法を実践した方

健康法は執念がないとなかなか続かないと、最近感じています。今、母親が97歳で、病院に入院して薬で生きているような状態ですが、執念があるように感じます。食べ物は受け付けないのですが、「薬だから吞んで！」と言うと必死になって吞むのです。車椅子に

乗せるために看護師さんが抱き起そうとすると、手を出してつかまろうとします。これは生きるということに対しての執念だと思います。今朝はベッドの上で自分の足を一步動かしましたので、嬉しくなりました。健康だという証ですから。以前お医者さんから言われたことですが、母は50代の頃から20年間くらい毎日2時間ほど散歩をしていたので、それが今の健康に繋がっているのだと思います。非常に有難いことです。ということで、健康法を続けるにも、健康であり続けたいと願う執念が要ると感じます。

○ 昨夜眠る時に、明日のことを過去形でイメージして眠れた方。

論語から考える

論語のお話してから時事評論に参ります。本日の論語は顔淵篇 11～15 です。

【十一】 齊の景公 政 を孔子に問う。孔子對えて曰く、君 君たり。臣 臣たり。父 父たり。子 子たりと。公曰く、善いかな。信 に如し君 君たらず、臣 臣たらず、父 父たらずんば、粟有り^{ぞくあり}と雖も、吾 得^えて諸^{これ}を食^{くら}わんやと。

齊の景公は58年間その位にありました。

齊の景公が政治について孔子に聞きました。

孔子が答えました。「主君は主君らしく、家臣は家臣としての分を守る。父親は、父親らしく、子は子らしく父親を尊敬しなければいけません。」

景公が言いました。「それは良いことだ。もし主君が主君らしくなく、家臣が家臣らしくない、父は父らしくない、子は子らしくない場合は、十分な食べ物があったとしても私は安心してこれを食べる事はできない。」

皆さんはどんなイメージが浮かびましたか。私は民主党政権が浮かびました。例えば菅直人さんは3.11の時、「君 君たり」だったのでしょうか。残念ながら、総理大臣としては失格でした。「粟有り^{ぞくあり}と雖も、吾得^えて諸^{これ}を食^{くら}わんや」という部分では、小沢一郎さんが浮かびました。原発事故の時、小沢さんは現地に行かずに逃げました。それに対して奥さんが、こんな人とは一緒にいたくないと三下り半を突きつけたことで騒がれました。なぜ被災者と人生を共にしようと思わないのか、なぜ秘書に罪をなすりつけるのかと思います。

野田さんは復興予算を5年間で19兆円組みましたが、初年度の執行率は60%でした。最初に復興予算を組んだ時は青天井で、初年度で全部使ってしまったから何とか現地の人たちを復興させたいと考えて組んだわけでしょう。結果どうだったか……。執行率60%のうち、被災地で使われた予算はそのうちの16%だということですから、いったい何な

のでしょうか。流用という言葉が広がりましたが、霞が関の合同庁舎の改修に充てられている。官僚は「君 君たり・臣 臣たり」とは全く違う動きをして、復興に関係ないところにまであちらこちらに予算をばら撒いた。現地の悲惨さを見に行かないで、気楽に復興予算をばら撒いたのですから、この国はどうなっているのでしょうか。19兆円の予算を組んだのであればどのように使われているか責任を持って最後まで見よ！ それもしないでばら撒いているだけでよいはずがない・・・とこの部分を読みました。

【十二】子曰く、片言し以て獄へんげんを折もつむべき者ごは、其され由ゆうなるかと。子路 諾しを宿だくむること無なし。
先ほど申しました。

【十三】子曰く、訟うったえを聴きくことは吾われ 猶な 人ひとのごとし。必かならずや訟うったえ 無なからしめんか。

孔子が言うには、訴訟に関して私は普通ふつうの能力能力しかない。けれども、訴訟しんそが起おこらない仕組しきみを作る努力なつりをする。

今の日本はどうでしょうか。仕組しきみを作るべき政治家せいじはどこまでやっているか。官僚くわんりょうは仕組しきみを自分で作ることは出来できません。だったら、選挙せんきょで変かえるしかないのでしょうか。今日けふの日経新聞にっけいしんぶんに、自民党じみんとう・公明党こうめいとう・民主党みんしやうの実務者じつむしやが話し合かって、18歳じゅうはちじ以上いじやうには憲法改正けんぽうかいせいを含む国民投票こくみんとうひょうをさせようさせようと実務者じつむしやレベルで合意ごういしたと出ていました。小さな記事きじです。どうぞ色々な新聞しんぶんをご覧らんになって、おやっと思おもうものを見比みひべて下さい。

【十四】子張しちやう 政まつりごとを問とう。子曰く、之これに居おりて倦うこと無なく、之これを行おこなうに忠ちゆうを以もつてすと。

子張しちやうが政治せいじを行おこなう心構こころかまえを聞ききました。

孔子が言うには、三日坊主さんじつぼうしゅではいけないい。誠意せいぎを持もって一所懸命いっしょけんめいやりなさい。

「忠を以てす」の「忠」とは誠意せいぎです。誠意せいぎとは「尽己じんぎ」という言葉にも置き換かえられます。山田方谷やまだかたやが佐藤一斎さとういつさいの元もとを離はなれる時に贈たまられた書かきには「盡己じんぎ」と書かかれていました。尽己じんぎ（己おのれを尽つくす）とは、真心まごころを尽つくす、誠心誠意せいしんせいぎ。私利私欲しりしよくを超越ちゆうえつしなさいという意味いみになります。利害りがい・打算たさんを超こえて必死ひつしになってやっやっていくと、私利私欲しりしよくがないから大事だいじなことがこてきばきとスピーディースピーディーに出来できる。3.11さんじゅういちの時に、尽己じんぎという考かえ方かたで政治家せいじ・官僚くわんりょう・現地げんちの人たちひとがやれば、もう今ごろいまごろは復興ふくしんしているはずはずです。3年さんねん経たっても復興ふくしんしないのは

おかしいと感じています。それは「忠を以てす」という考え方がないからです。

【十五】子曰く、博く文を学び、之を約するに礼を以てせば、亦以て畔かざるべきかな。

孔子が言うには、たくさんの文献を読みなさい。そうすれば知識が広がり、学んだものを纏める時は礼という理念で統一すればよろしい。そうすれば、正しい道から外れない。

正しい判断基準を持ちなさい、ということです。今の日本の中で、正しい判断基準を持っているのは誰か、または何か……。そう問いかけた時に私は論語を推奨します。そして考え方は「足るを知る」です。ですから、モンゴルの国でも聴きたいという人が出て来た。そのように私は理解しています。

時間が参りました。本日の時事評論、今、注意するキーワードは侵略という文字が大きく浮かび上がって来ました。クリミア紛争は今の世界の状況を読み解くのに非常に良いキーワードだと思います。それと自分自身と置きかえて考えてみる必要がある。自分を磨くのにちょうどよい時期に来たと思っています。以上で本日の講話は終了です。有難うございました。